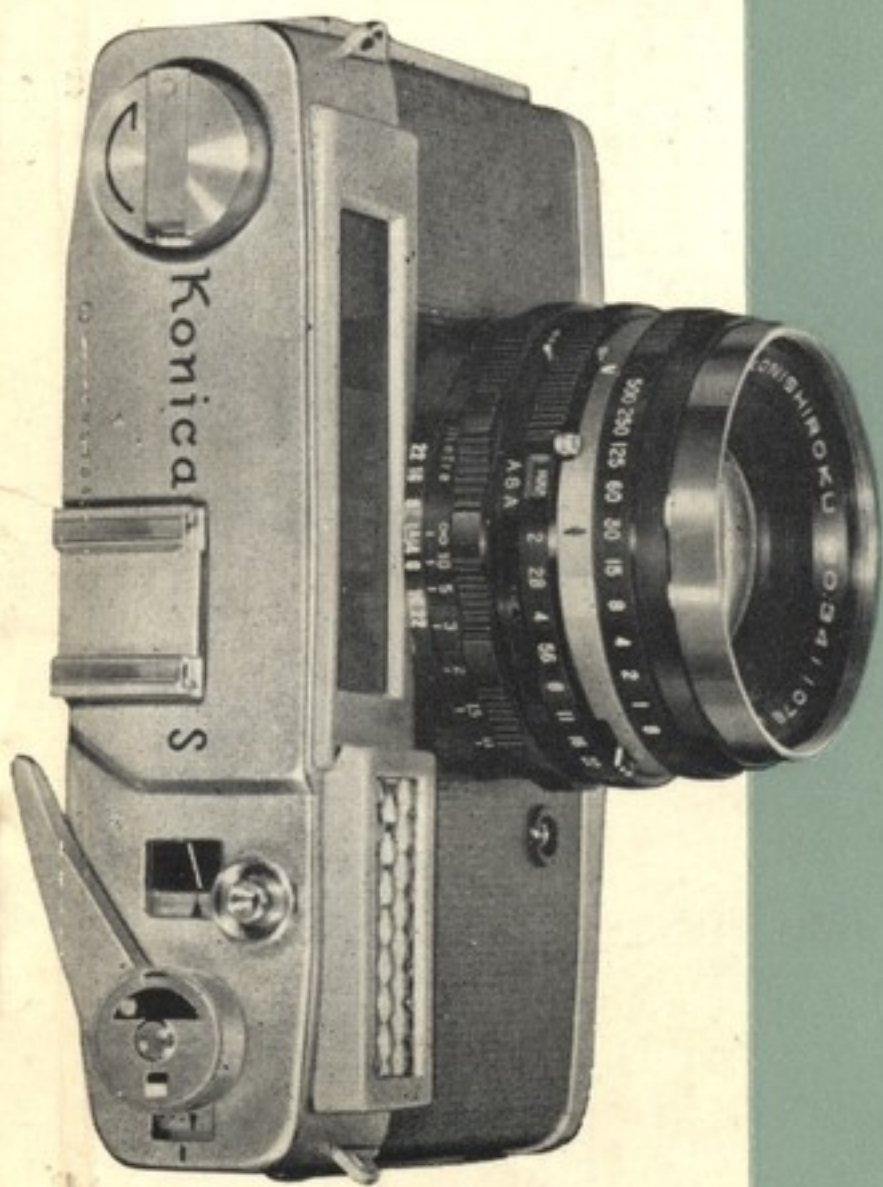


Konica



INSTRUCTION

S

BOOKLET

お買上げありがとうございます。

コニカSは当社のコニカシリーズのうちスタンダード型として、近代的なセンスを盛り込み洗練された美しいデザインで誕生した新しいコニカカメラであります。露出計の完全連動、パララックス完全自動修正装置のついたファインダー、セルフタイマービルトインのMXフルシンクロシャッター、すばらしい描写力をもつヘキサノンレンズなど、数々の特色をもちデザインと機能とが完全にマッチした高性能35ミリカメラとして、きっとご満足いただけることと存じます。



— 目 次 —

コニカ S 主要性能	4
各部の名称— 1	6
各部の名称— 2	8
各部の名称— 3	10
各部の名称— 4	12
各部の名称— 5	14
巻上げレバーの操作	16
フィルムの入れ方	18
撮 影 の 順 序	24
カメラの構え方	26
焦点の合わせ方とファインダーの見方	28
連動露出計・シャッター・絞り	30
セルフタイマーの使い方	33
連動露出計の使い方	34
フラッシュ同調撮影	40
被 写 界 深 度	42
フィルムの巻戻し	44

コニカ S 主要性能

- 画面サイズ 24×36ミリ
- 使用フィルム 35ミリフィルム (J 135)パトローネ入り
- レンズ ヘキサノン F 2 48ミリ
5群6枚構成 改良アンバーコーテッド
- シャッター コパル S V
B・1・2・4・8・15・30・60・125・250・500 倍数系列等間隔目盛
MXフルシンクロ ビルトインセルフタイマー
- 露出計完全連動 高性能反射光式電気露出計がフィルム感度、シャッター速度、絞りの三要素に完全連動するので適正露出がたやすく決められます。
- 焦点調節 一眼二重像合致式距離計連動、直進ヘリコイド方式。
- ファインダー パララックス完全自動修正ブライトフレームファインダー (倍率0.65×)
- フィルム巻上げ 一作動によるレバー巻上げ、セルフコッキング (引出角 30°巻上角 120°)
二重露出防止。

そ の 他 オートマチックフィルムカウンター、
クランク式フィルム巻戻し、巻戻し
ボタン自動解除。

フ ー ド かぶせ式専用フード (51ミリ)

フ イ ル タ ー ねじ込み式専用フィルター (49ミリ
P=0.75)

カメラの大きさ 132×85.5×72ミリ

カメラの重量 720g

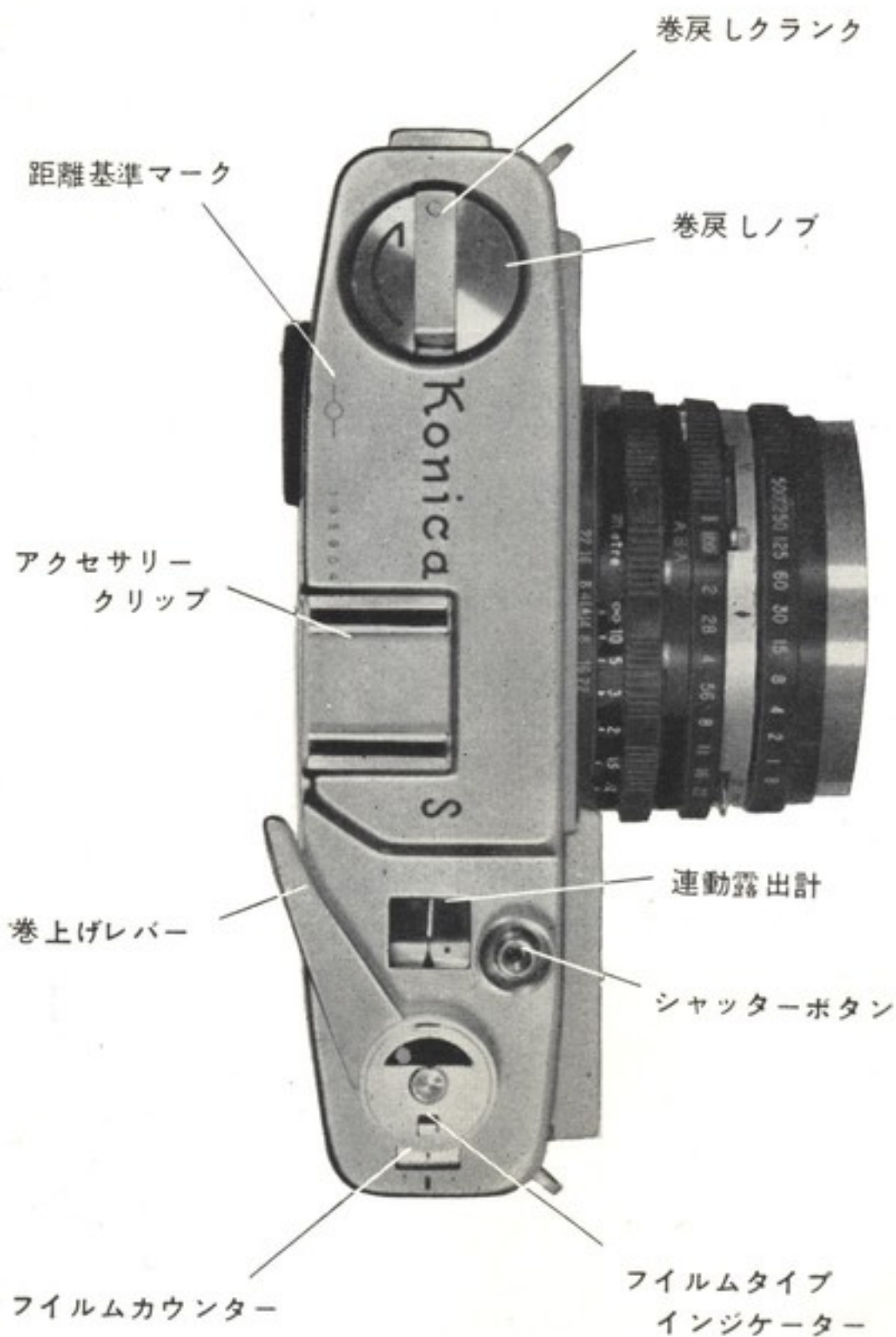
美しい調子の **さくらフィルム** をご愛用ください

		ASA露光指数	
		昼光	電燈光
コニパン	S	50	40
コニパン	SS	100	80
コニパン	SSS	200	160
コニカラーネガタイプ		50	
さくら天然色フィルム		10	
さくら反転フィルム		40	
さくら赤外750		感光域 6400Å [*] ~ 8200Å [*]	



小西六写真工業

各部の名称 — 1



巻上げレバー 一作動でフィルムが一コマ巻上げられ同時にシャッターがチャージされます。

フィルムタイプインジケーター 突起を動かすことにより白黒、青、赤が現われますから、それぞれモノクローム、カラーネガ、カラーポジフィルムの装てん表示にご利用ください。

フィルムカウンター オートマチックフィルムカウンターですから撮影は自動的に表示される1より始められます。

シャッターボタン 巻上げレバーを操作した後シャッターボタンを押すとシャッターがきれます。

連動露出計 フィルム感度、シャッター速度、絞りの三要素に完全連動する高性能露出計です。

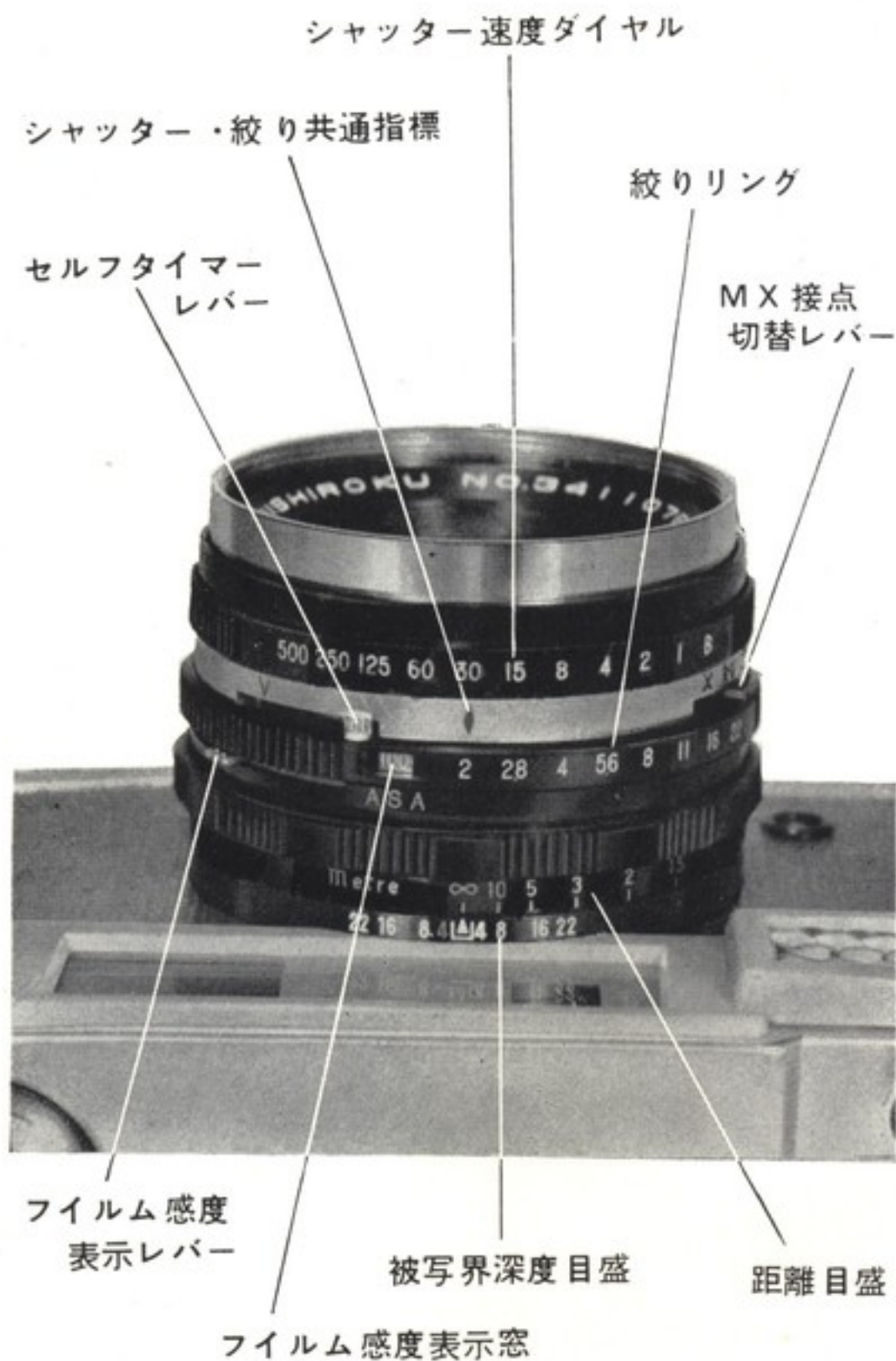
距離基準マーク (フィルム位置) 被写体までの距離の基準になるマークです。

アクセサリークリップ ポケット型フラッシュガンなどの取付座となります。

巻戻しクランク 折りたたみ式の巻戻しクランクは、はじめカメラ底部の巻戻しボタンを押し撮影済フィルムの巻戻しに使用します。

巻戻しノブ 内部の巻戻し軸につながり、フィルム巻上げと同時に逆転します。

各部の名称 — 2



シャッター速度ダイヤル ダイヤルを回すことにより速度変更ができ各目盛位置でクリックストップします。

(露出計に連動)

絞りリング リングを回すことにより絞りの調節ができます。(露出計に連動)

シャッター・絞り共通指標 シャッター速度および絞りの合わせ指標です。

フィルム感度表示レバー このレバーを動かすとASA露光指数で目盛られたフィルム感度表示リングが回転します。(露出計に連動)

フィルム感度表示窓 装てんしたフィルムのASA露光指数をこの窓に合わせておきます。

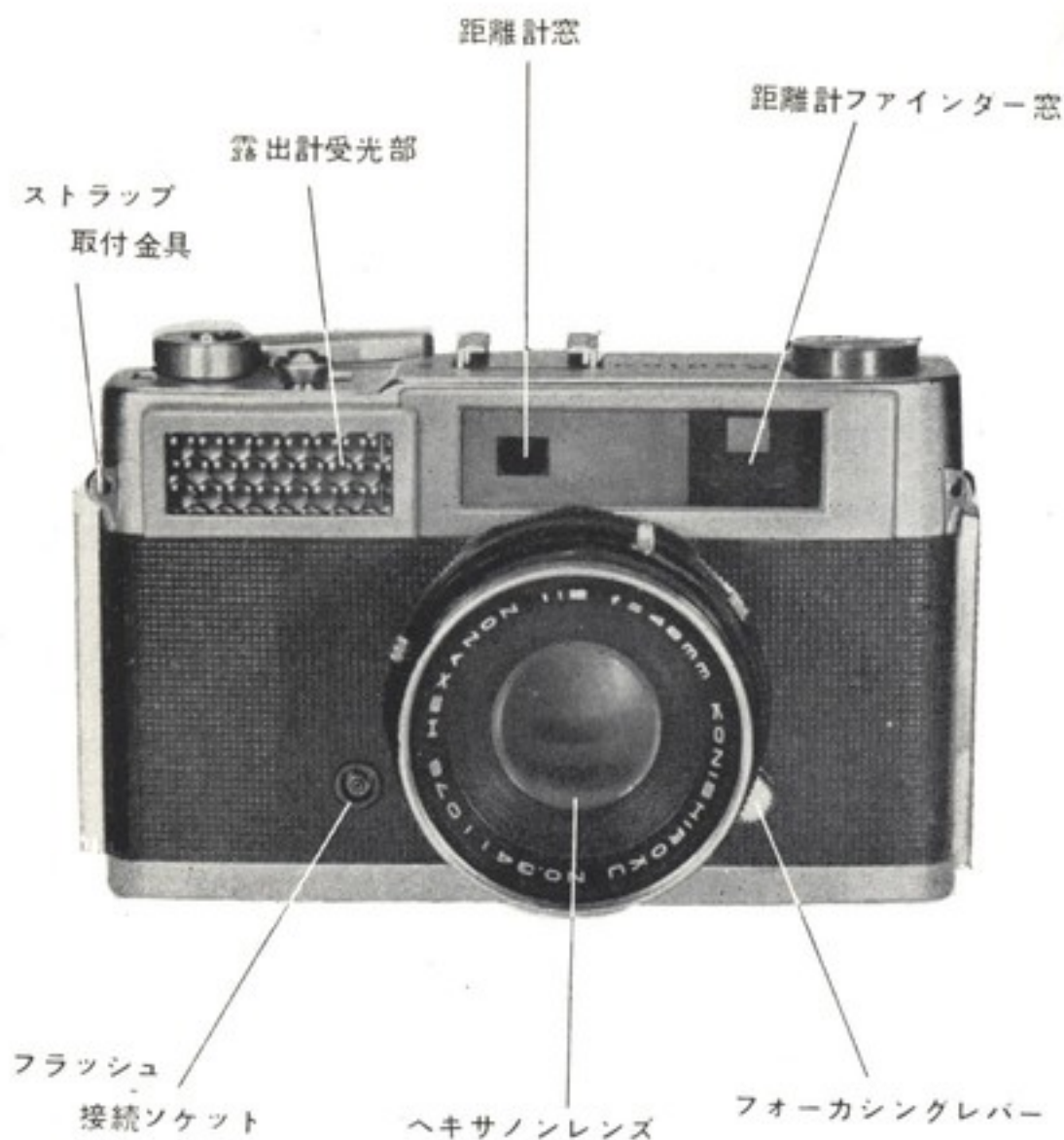
M X接点切替レバー M級フラッシュバルブを用いた同調撮影のときはMに、ストロボ同調撮影のときはXにセットします。

セルフタイマーレバー レバーをV目盛位置まで(途中まででも可)セットしシャッターボタンを押すとセルフタイマーが働き約10秒後にシャッターがきれます。

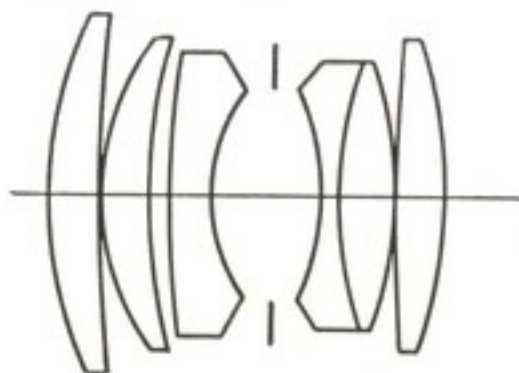
距離目盛 連動距離計で焦点を合わせてから目盛により被写体までの距離がわかります。

被写界深度目盛 この目盛により各絞りにおける被写界深度(焦点の合う範囲)がわかります。

各部の名称 — 3



ヘキサノン
F2 48ミリ
構成図



ヘキサノンレンズ 5群6枚構成のヘキサノン48ミリレンズは諸収差のきわめてバランスよく補正された、描写力のすぐれたレンズとして、すでに定評があります。

フォーカシングレバー ファインダーをのぞきながらレバーを動かすと中央に見える二重像の一方の像が動きます。焦点を合わせるには、レバーを動かしてこの二重像を合致させればよいのです。

フラッシュ接続ソケット フラッシュ同調撮影に際し、フラッシュガンのコードを接続することにより回路が構成されます。

距離計ファインダー窓 ファインダーに距離計が組込まれた一眼式で、視野は明るく二重像は紫と黄の補色関係になっています。

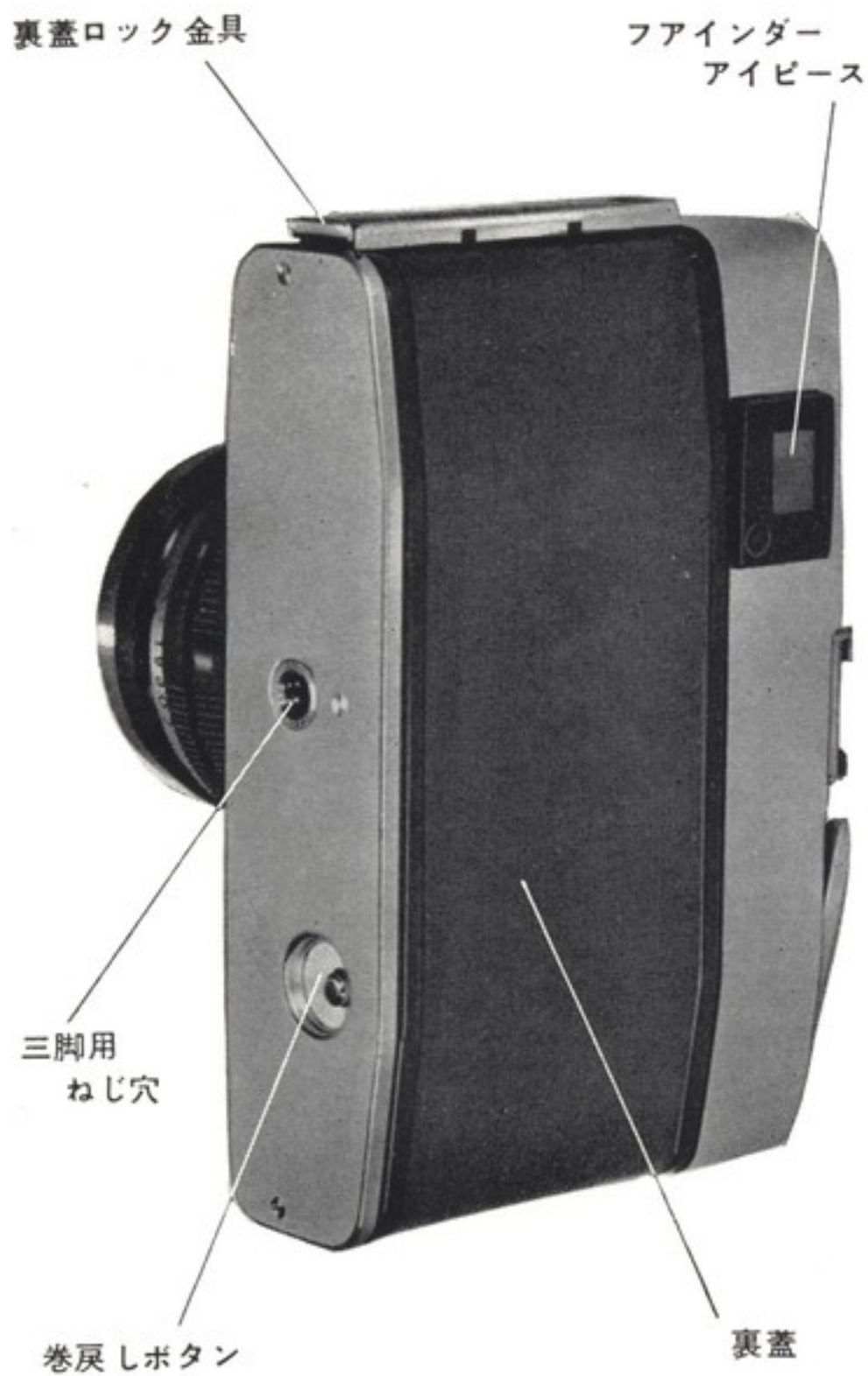
距離計窓 距離計反射像側の窓で周囲はブライトフレームの採光窓になっています。

露出計受光部 完全連動露出計の受光部で、高低切替不要のため露出の決定に煩わしさがありません。

ストラップ取付金具 カメラをケースに入れずに使用する場合この金具にストラップを取付けます。

露出計受光部、ファインダー窓わくおよびアイピースわくのプラスチック部分清拭のためにエーテル、シンナーを用いることは避けてください。少量のアルコールならば差支えありません。

各部の名称 — 4



裏蓋ロック金具 金具を引けば裏蓋が開きます。ロック金具はスプリングにより常に閉まる方向に引かれているため不用意に裏蓋が開くことはありません。

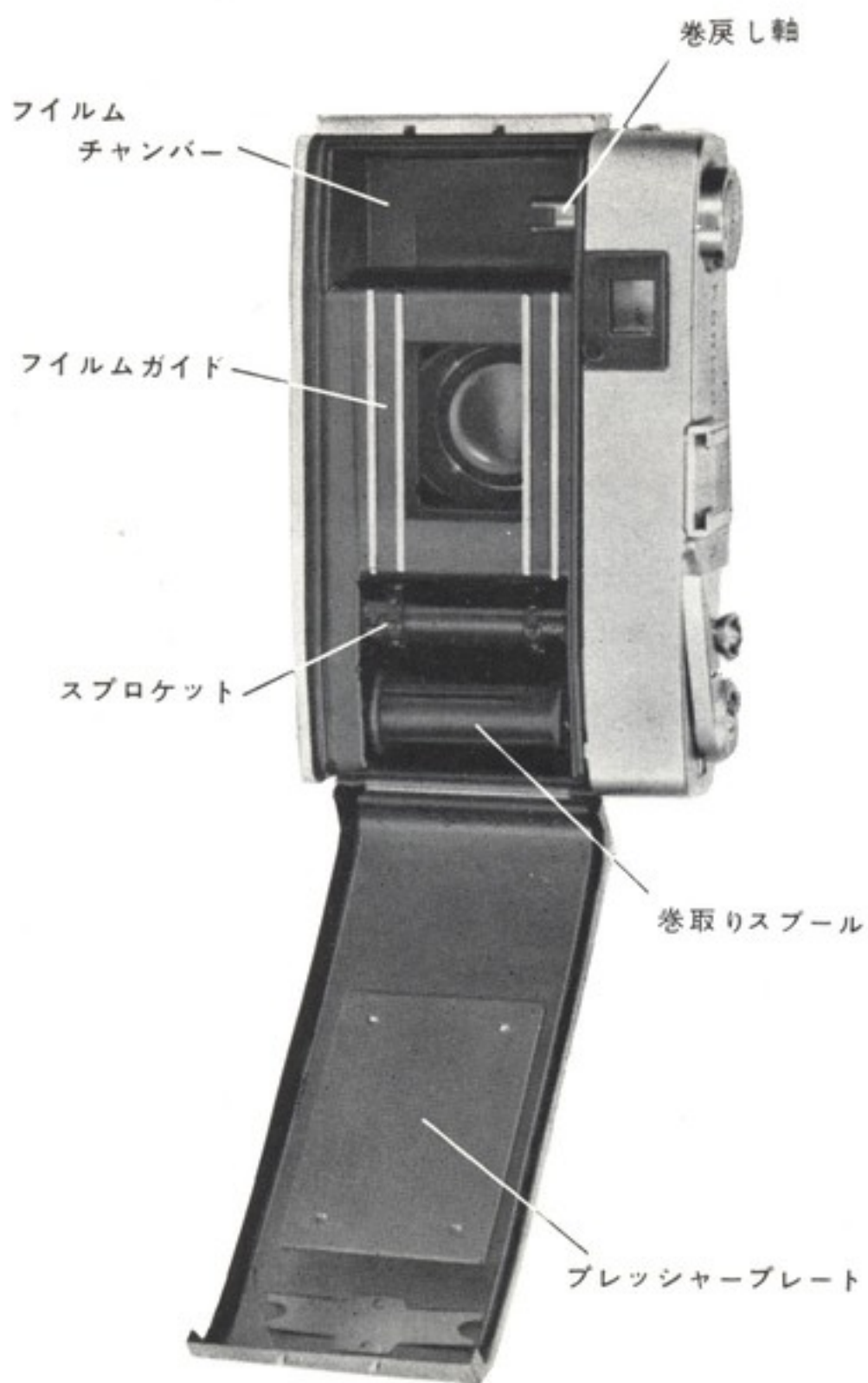
ファインダーアイピース ファインダーをのぞくアイピースは角型で大きいいため見易く、撮影範囲がブライトフレームで区切られて見え、のぞく眼の位置による誤差が生じません。

三脚用ねじ穴 カメラを三脚に取付けるねじ穴です。カメラの皮ケースもこのねじ穴に締付けておきます。

巻戻しボタン ボタンを押すとスプロケットがフリーになり巻戻しクランクでフィルムを元のパトローネへ巻戻すことができます。ボタンは巻上げレバーの操作により元に戻ります。

裏蓋 裏蓋ロック金具を引くことにより裏蓋は開きます。閉じるには裏蓋の端を軽く押えつけるだけで済みます。

各部の名称 — 5



フィルムチャンバー フィルム装てんに際しパトローネを納めるところです。

巻戻し軸 巻戻しクランクにつながる軸で先端の溝がパトローネ軸に噛み合います。

フィルムガイド フィルムの通るガイドで焦点面となっています。

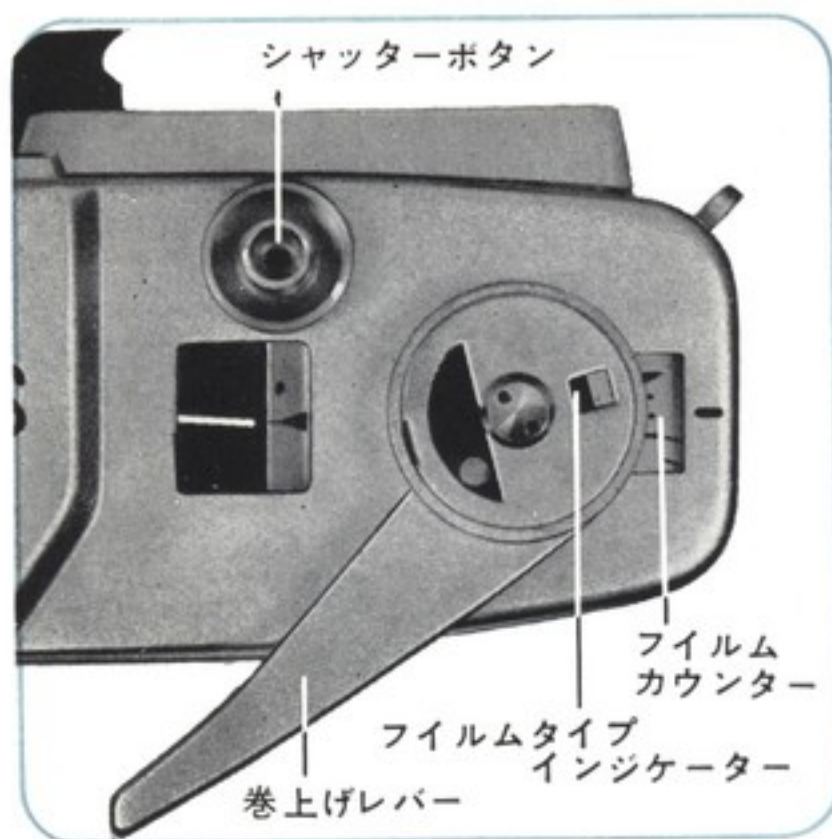
スプロケット 巻上げレバーの操作により回転してフィルムを送る歯ですから、フィルムを入れるときパーフォレーション(フィルムの穴)をこの歯に合わせます。

巻取りスプール 露光を終わったフィルムを巻取るスプールで、軸にフィルムの先端を差し込む溝があります。

プレッシャープレート プレッシャープレートは撮影画面位置のフィルムを正しく平面に保持します。

きれいな写真をつくるためにカメラ内部は常に清浄にしておきましょう。

巻上げレバーの操作



- 巻上げレバーはスタート位置まで 30° の引出角と、 120° の巻上げ角度をもち、一作動でフィルムが一コマ巻上げられ同時にシャッターがチャージされます。
- 一度操作した巻上げレバーはシャッターをきらないうちは二度操作はできません。
- スタート位置に巻上げレバーを引き出しても押せば元に戻りますが、スタート位置をこえた場合には完全に止まるまで回転させないと元には戻りません。

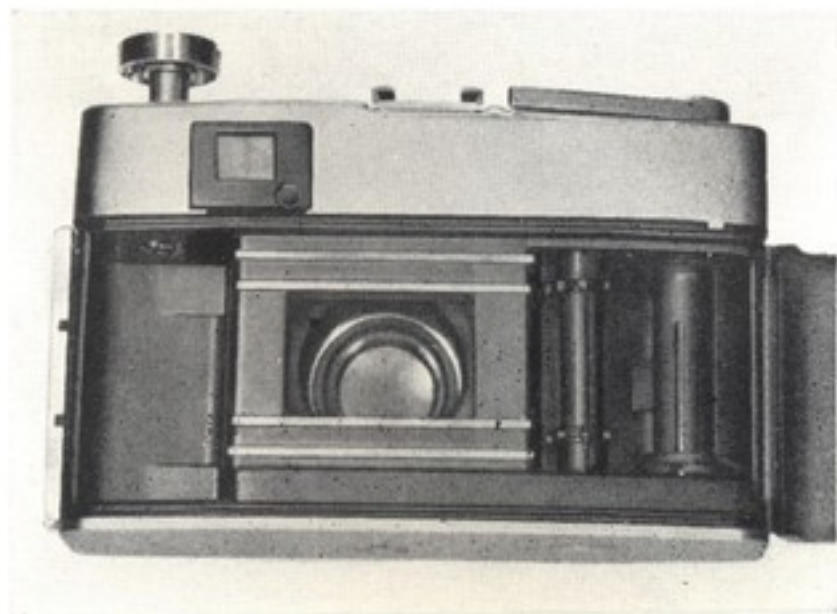
- スタート位置をこえると巻上げレバーはやや重くなりますが、この間でフィルムの巻上げとシャッターチャージが行われます。したがって連続撮影のときは巻上げ角度内だけの操作でよいわけです。
- フィルムカウンターは巻上げレバーを一作動するごとに一目盛ずつ進み36でフリーになり、撮影が終了フィルムを巻戻してから裏蓋を開けると自動的にスタートマークに戻ります。
- 巻上げレバーは撮影直前に操作する習慣をつけてください。チャージしたまま長時間放置することはシャッターのためによくありませんし、不用意にシャッターボタンを押し無用な露出をしたりします。
- 巻上げ後シャッター速度の変更を行っても差支えありません。
- フィルムが全部撮影済みになると、巻上げレバーが途中で止まることがあります。このときは巻戻しボタンを押したまま、巻上げレバーを止まるまで操作すれば元に戻ります。
- フィルムタイプインジケータの白黒はモノクローム、青はカラーネガ、赤はカラーポジフィルムを入れたときの識別に利用してください。

フイルムの入れ方

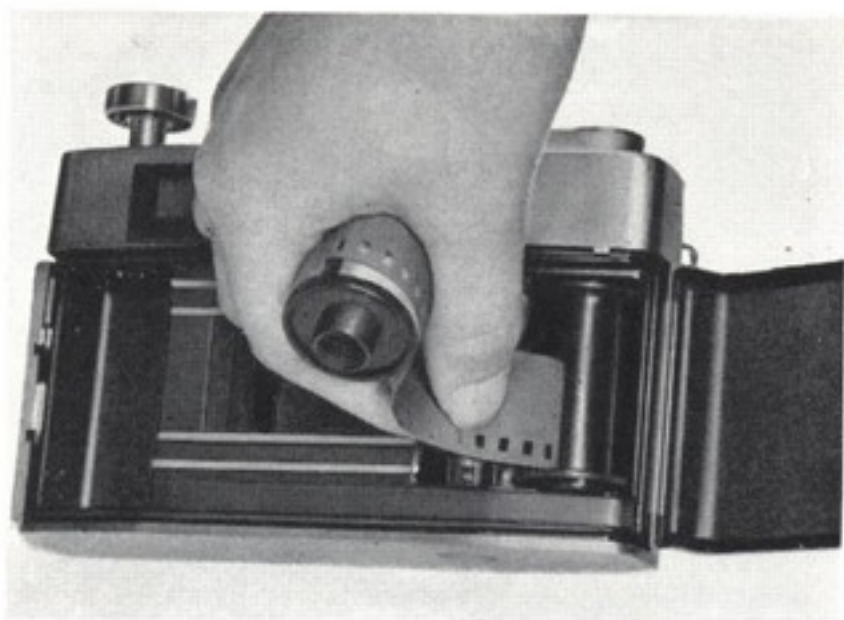
■コニカSはパトローネ入り35ミリフィルムを使用します。

■フィルムを入れるときは必ず日陰を選んでください。日陰のない場所では自分のからだの陰を利用するのも一つの方法です。

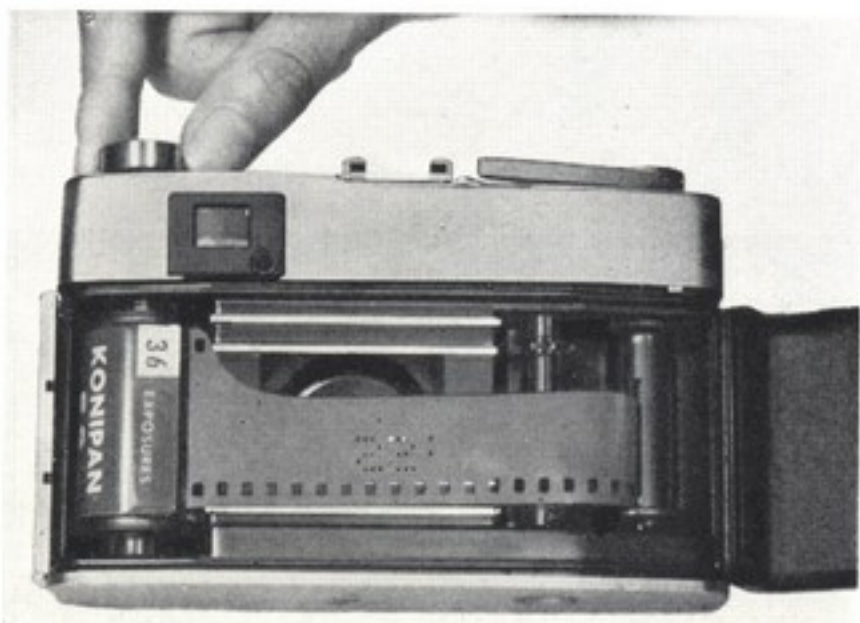
①裏蓋ロック金具を引いてカメラの裏蓋を開き、巻戻し軸を押し出しておきます。



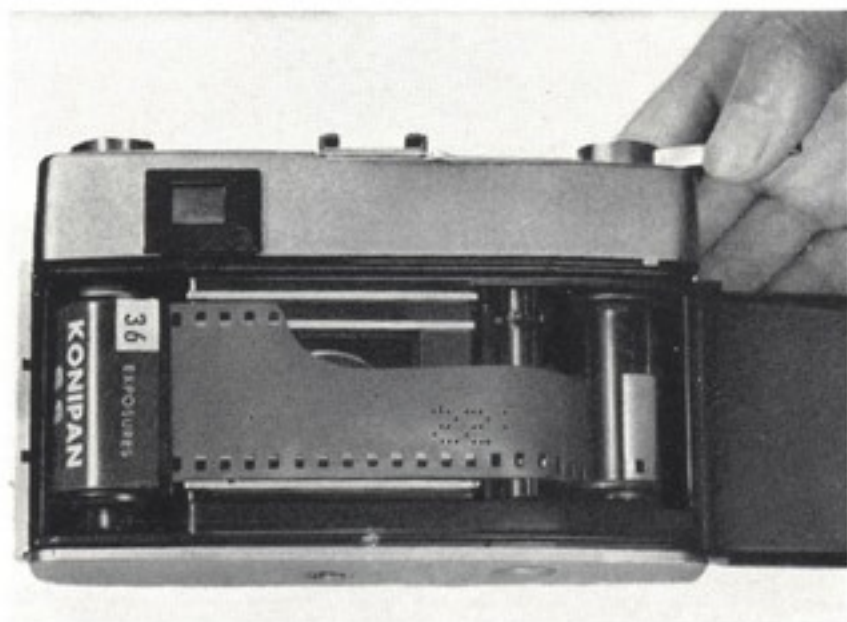
- ② フィルムの先端を巻取りスプールの端に合わせて溝に差し込み（巻取りスプールは空転しますから指先で回し溝を差し込み易い位置にします。）



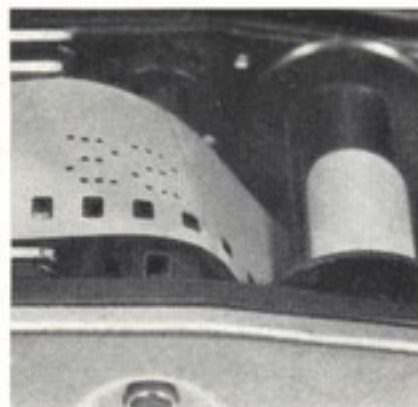
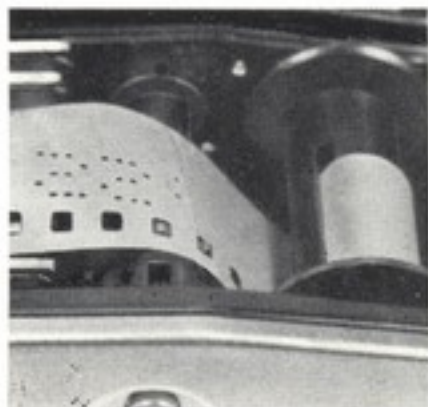
- ③ パトローネをフィルムチャンバーに納め、巻戻しノブを左右に少し回しながら元の位置に押し込み、



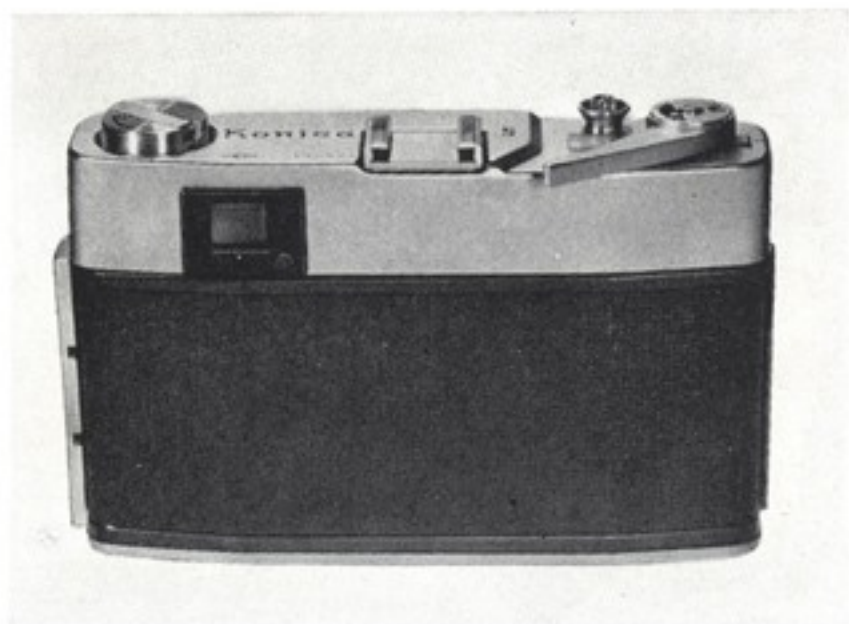
- ④ パーフォレーション（フィルムの穴）をスプロケットの歯に合わせながら巻上げレバーを操作すると、フィルムが巻取りスプールに巻かれます。



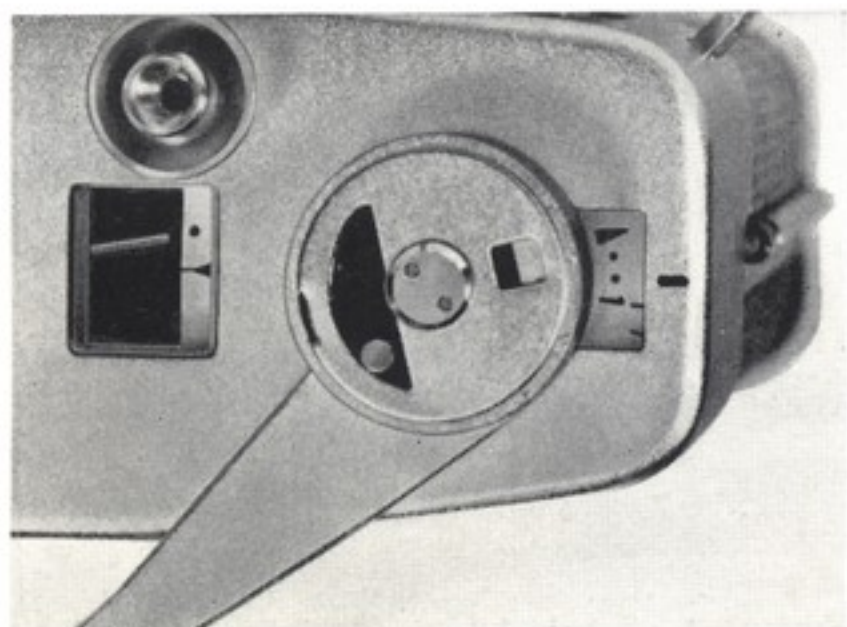
パーフォレーションをスプロケットの歯に合わせる。



- ⑤裏蓋を閉じシャッターボタンを押し、巻戻しノブを矢印の方向に回してフィルムのゆるみをなくしておきます。



- ⑥レバーを巻上げ、シャッターボタンを押す操作を二回繰返すとフィルムカウンターは1の手前の黒ポチを指しております。



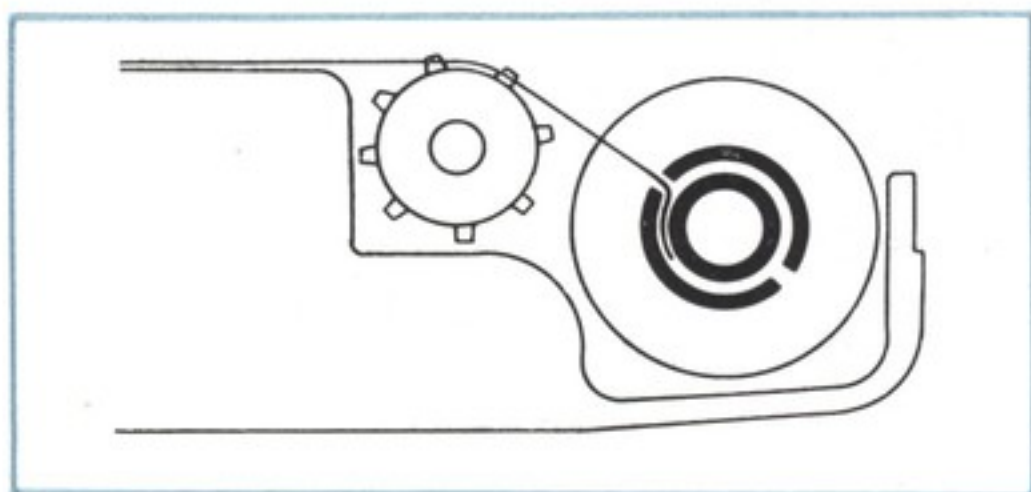
- 7 7 ファイルム感度表示窓に使用ファイルムのASA露光指数を出しておきます。



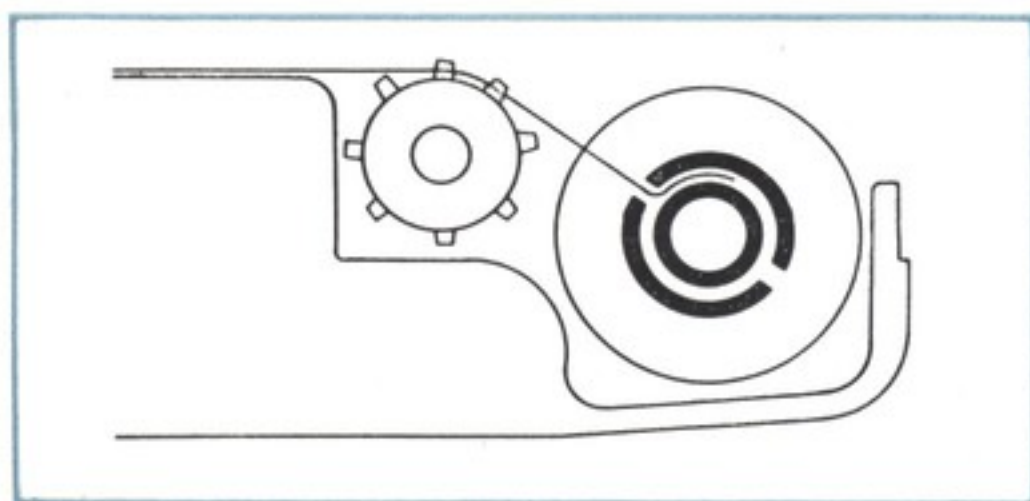
以上で撮影の準備ができました。

- 6 の操作中ファイルムが正しく巻上げられているときには巻戻しノブが逆の方向に回ります。もし回らなければファイルムが正しく巻上げられていない証拠ですから、装てんのやり直しをしなければなりません。

- フィルムの先端を図示の方向に差し込んでおけば、
巻戻し完了の際フィルムが巻取りスプールから軽く
はずれます。一般にはこの方向に差し込むようおす
すすめします。



- フィルムの先端を図示の方向に差し込んだときには、
巻戻し完了の際フィルムが停止して巻取りスプール
からはずれないため、むりに巻戻しクランクを回さ
ないで、裏蓋を開いて指先でフィルムをはずしてく
ださい。

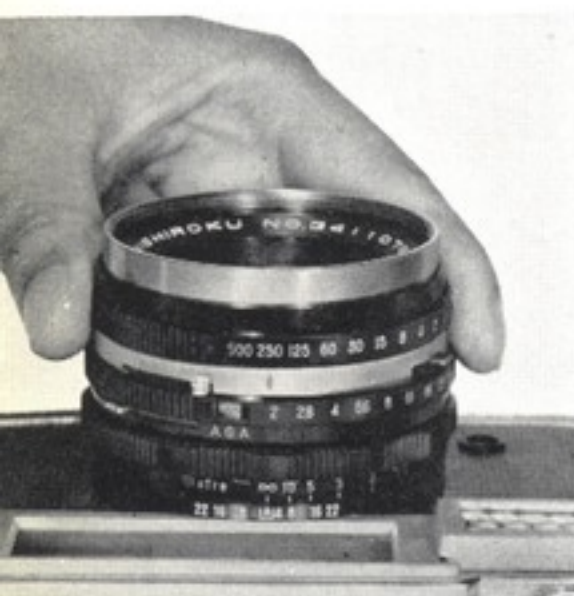


撮 影 の 順 序



1

レンズキャップをとる



2

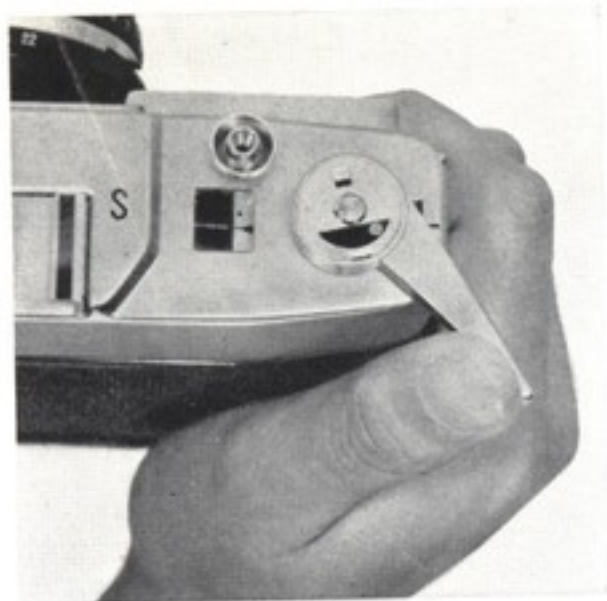
シャッター速度目盛を
希望する速度にセット
する



3

カメラを被写体の方へ
向け絞りリングを回し
て露出計の指針を指標
に正しく合わせる

(P 38参照)



4

巻上げレバーを巻上げる



5

焦点を合わせブライ
フレームの中で構図を
決める



6

シャッターボタンを押
す

カメラの構え方

鮮鋭な写真を得るためには、シャッターボタンを押す際カメラぶれを起さぬような保持法をとることがたいせつです。カメラを手、鼻、ひたいなどでうまく顔に密着させて安定をはかり、シャッターボタンを押す指先には強い力を入れなくて呼吸を止めて静かに押しします。



カメラを顔に密着させて安定をはかります。

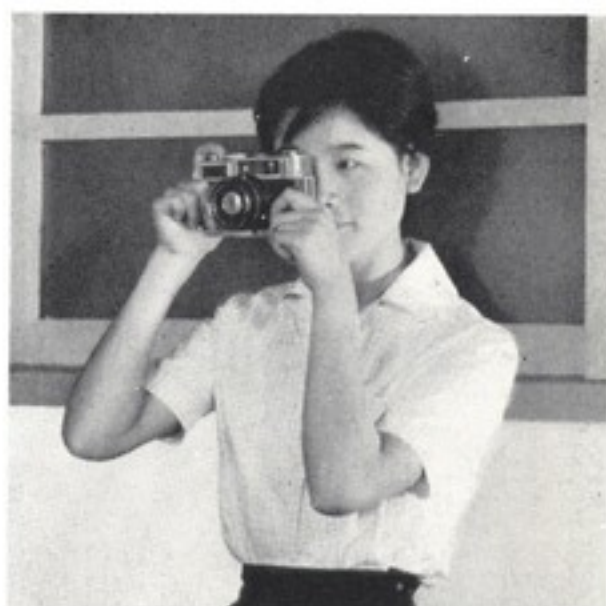


安定した姿勢でむりなく構えることがたいせつです。

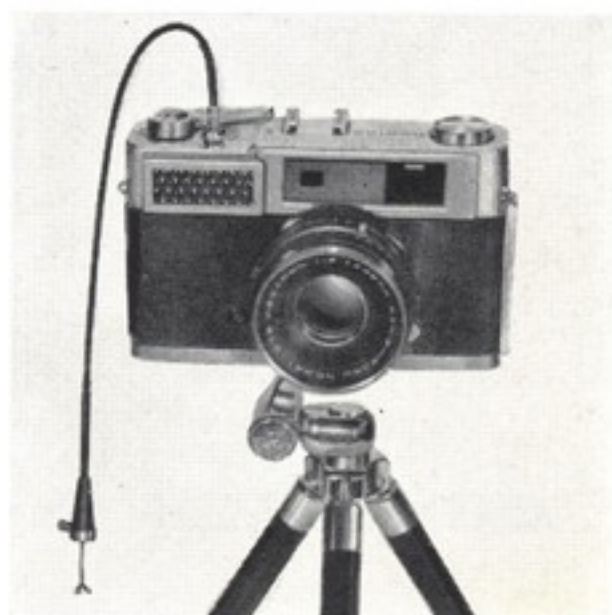
縦位置撮影ではこのよ
うな構え方もありますが
が自分でやりよい方法
で撮影してください。



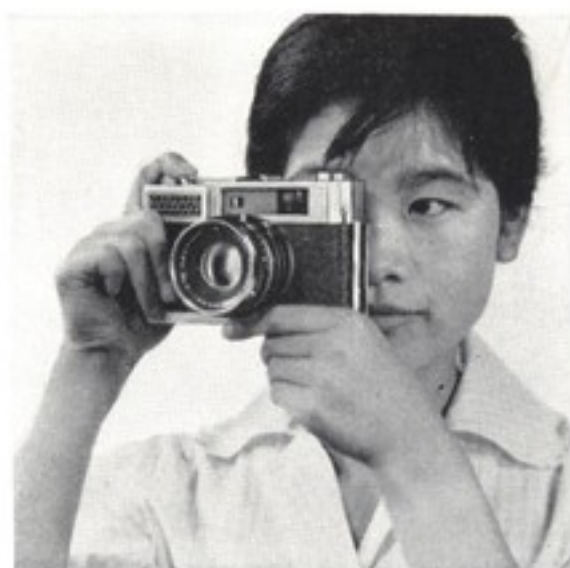
立木や壁によりかかっ
たりすれば遅いシャッ
ター速度でも手持撮影
ができます。



$\frac{1}{5}$ 秒以下の遅いシャッ
ターのときはできるだ
け三脚か台を使用しカ
メラを固定します。
ケーブルリリースはシ
ャッターボタンのねじ
穴にねじ込んで使用し
ます。



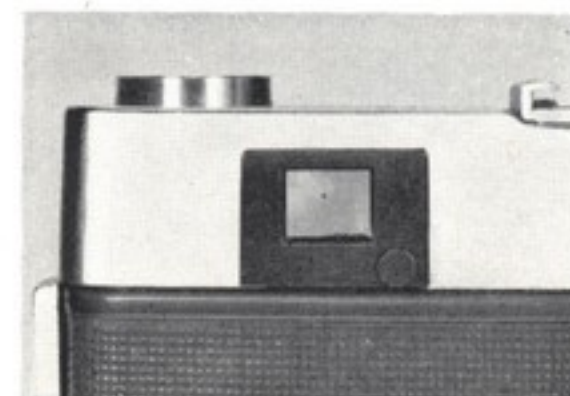
- 焦点を合わせるには
ファインダーをのぞ
きながらフォーカシ
ングレバーを動かす。



焦点が合ったと
き（ねらった被
写体の二重像が
合致している）



焦点が合ってい
ないとき（ねら
った被写体の二
重像が分離して
いる）



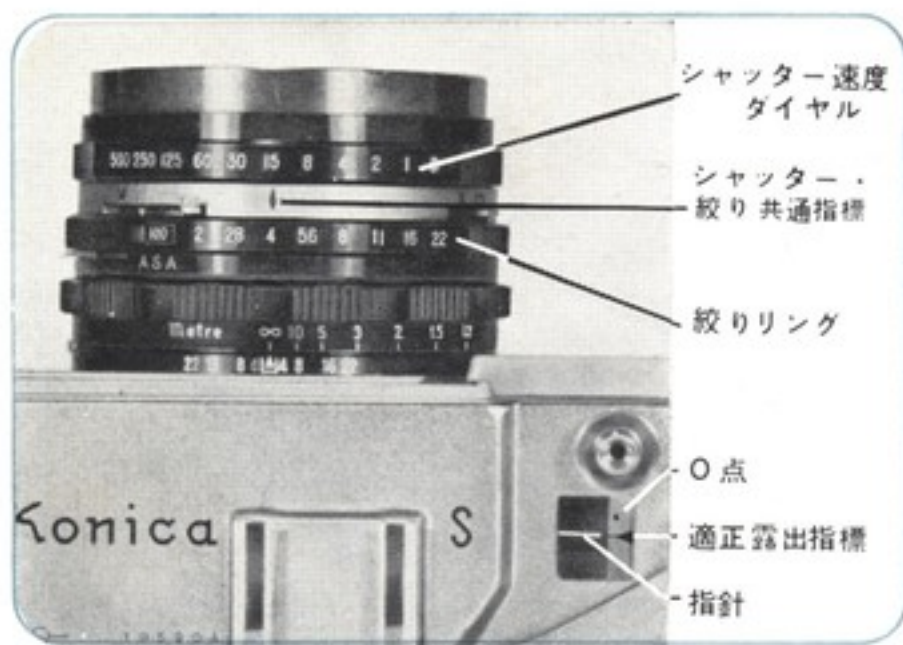
焦点を合わせるにはファインダーをのぞきながらフォーカシングレバーを動かすと、ファインダー中央部に見える被写体の二重像の一方の像が動きます。この二重像が完全に合致したときが焦点の合ったときで、レンズの焦点は正確にねらった被写体に合っております。

採光式ブライフレームファインダーですから視野の中に明るく見えるブライフレームによって撮影画面が区切られて見え、ブライフレームは眼の位置による誤差がないためいつも撮影画面を正確に決定することができます。

パララックスは完全自動修正

ファインダーをのぞきながらフォーカシングレバーを動かすと、近距離になるにしたがってブライフレームが、小さくなりながらレンズの光軸方向に移動するのが見られます。これはパララックス自動修正装置の働きによるもので、単にブライフレームがそのまま動くだけでなく近距離における画角の違い（近距離になるにしたがってレンズが前進するため画角が狭くなる）まで自動的に修正が行われる画期的なファインダーで、各距離においてファインダー視野と撮影画面は常に一致しております。

連動露出計・シャッター・絞り



連動露出計は高低の切替不用の反射光専用方式でフィルム感度、シャッター速度、絞りの三つの要素に完全連動します。連動方法は電氣的抵抗方式を採用し、特殊光電池を使用した高性能を誇る電気露出計であります。

フィルム A S A 露光指数系列

10	16	·	32	50	·	100	200	400	800
----	----	---	----	----	---	-----	-----	-----	-----

16と32および50と100の中間の点はそれぞれASA 25および80相当の目盛です。

シャッターはコバル S V を装備し等間隔倍数系列目盛、セルフタイマービルトイン、MX のフルシンクロ機構をもっています。シャッター速度目盛は瞬間露出の逆数を示してありますから 1 は 1 秒、2 は $\frac{1}{2}$ 秒、125 は $\frac{1}{125}$ 秒を表わしております。B はバルブ露出とって、シャッターボタンを押せばシャッターが開き、放すと閉じるので 1 秒以上の露出に使用します。シャッター速度目盛の中間の使用はできませんから、必ずクリックする目盛位置に合わせてください。

シャッターの役目

- ① **動体を写し止める** 動きの速い被写体は速いシャッター速度で写さなければ被写体の動きによるぶれを生じます。同一動きに対しては近距離ほど高速シャッターを必要とします。
- ② **光量の調節** 絞りの役目と同じようにフィルム面に到達する光の量を露出計に連動して調節します。同一絞りならばシャッター速度を一段遅くすることにより二倍の光量が入るわけです。

シャッター速度										
B	1	2	4	8	15	30	60	125	250	500

絞りは等間隔の絞り目盛で見易く、絞りは1目盛絞るごとにレンズを通過する光量は半減する関係になっております。つまりF 2.8はF 2の半分の光量、F 4はF 2.8の半分の光量となります。絞りの開度は連続的に変わるものですから中間位置でも使用できます。

絞りの役目

①**光量の調節** 眼の瞳孔が暗いところでは大きく開き、明るいところでは小さくなるのと同じように、露出計の指針を合わせることにより連動して暗いところでは大きく、明るいところでは小絞りになってフィルム面に到達する光の量を調節します。

②**被写界深度の調節** ある被写体に焦点を合わせたとき、その前後においても鮮鋭に写る範囲（被写界深度）がありますが、絞りを小絞りにするほど被写界深度は深くなります。

絞 り 目 盛							
2	2.8	4	5.6	8	11	16	22

セルフタイマーの使い方

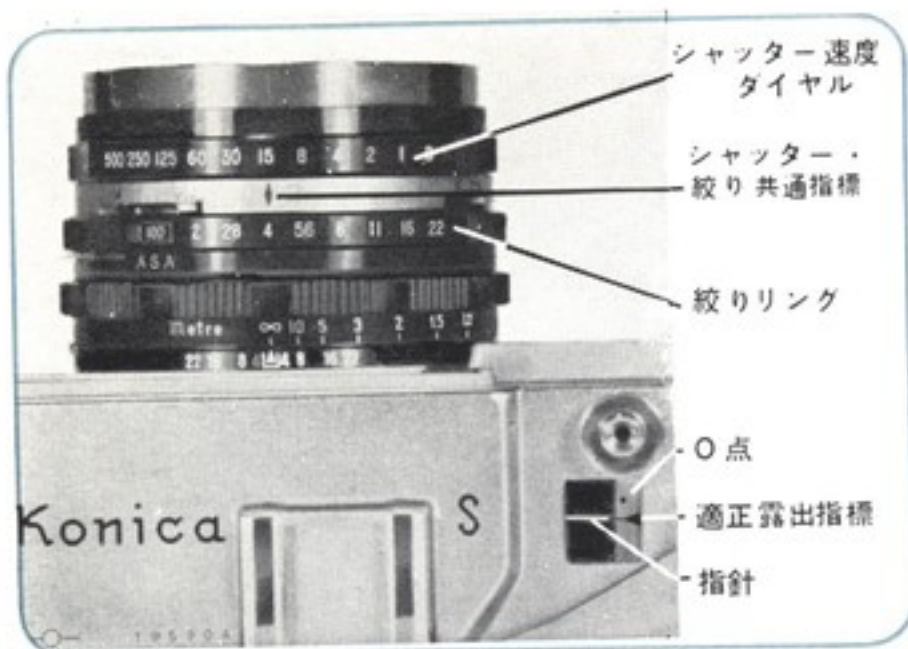


M X接点切替レバーをXの位置にし、セルフタイマーレバーをVの目盛位置までセットし、シャッターボタンを押すとセルフタイマーが作動し約10秒経過してシャッターがきれます。

セルフタイマーは記念撮影に利用するほかにも接写や顕微鏡写真撮影などのように、シャッターをきる際のカメラぶれを極度に警戒しなければならない場合に使用しても効果があります。

- セルフタイマーはB以外の各速度で使用できます。
(Bでセルフタイマーを使用すると約 $\frac{1}{50}$ 秒できれませんがこの使い方は避けてください)
- M接点の位置ではセルフタイマーは使えません。
- セルフタイマーはレバーを途中位置までのセットでも使えますから、作動時間を短かくしたいときにはセット量を少なくします。

連動露出計の使い方



露出を決めるとき受光部を指先でふさがらないように注意してください。

1

使用フィルムのASA露光指数をフィルム感度表示窓に出しておきます。



2

シャッター速度ダイヤルを回し、希望のシャッター速度をセットします。(シャッターの中間速度は未調整のため正しい中間速度が出ませんから必ずクリックする目盛位置で合わせてください)



3

カメラを被写体の方へ向け、絞りリングを調節して指針を指標に正しく合わせると適正露光を与える絞りの値が自動的に決まります。



■被写界深度を利用するため絞りを先に決めたいときは、あらかじめ希望の絞りをセットし、シャッター速度ダイヤルを回して露出計の指針を合わせます。(シャッター速度目盛の中間に位置した場合は、中間速度は使えないため、クリック位置まで送り絞りの方で微調整を行います)

■フィルター使用に際し露光量の増加を必要とするときは、いったん露出計を合わせてから、絞り目盛で調整します。連続してフィルターを使用するときには、フィルターの露光量増加分だけ下げたASA露光指数をフィルム感度表示窓に出しておくのも一つの方法です。

〔例〕露光指数ASA 100のフィルムで露出倍数4倍のフィルターを連続使用する場合、 $\frac{ASA\ 100}{4} = ASA\ 25$ をフィルム感度表示窓に出しておき、露出計の指示どおりで撮影すればよいわけです。

■露出計指標板の黒点は0点(零点)を示したもので、受光部を完全におおうと指針はこの位置まで戻ります。

■露出計の連動範囲は、ASA 100のときLV 6 からLV 17の間で絞りとシャッターに連動します。(露出計連動範囲一覧表参照)

露出計連動範囲一覧表

(フィルム露光指数ASA 100のとき)

FNO LV	2	2.8	4	5.6	8	11	16	22
6	15	8	4	2	1			
7	30	15	8	4	2	1		
8	60	30	15	8	4	2	1	
9	125	60	30	15	8	4	2	1
10	250	125	60	30	15	8	4	2
11	500	250	125	60	30	15	8	4
12		500	250	125	60	30	15	8
13			500	250	125	60	30	15
14				500	250	125	60	30
15					500	250	125	60
16	(SHUTTER SPEED)					500	250	125
17							500	250

コニフィルターの種類と露出倍数

コニカS専用コニフィルターのさくらフィルムコニパンSSS・SS・Sに対するだいたいの露出倍数は次のとおりです。

J I S 番 号	種 類	色 相	透過限界 波長(m μ)	露 出 倍 数	
				昼 光	電 燈 光
SL 39	U V	無 色	390	1.0	1.0
SY 48	Y 1	黄	480	1.5	1.2
SY 52	Y 2	濃 黄	520	2.5	1.3
SO 56	R 1	黄 赤	560	4.0	2.0

(露出倍数 1.5の場合は絞りを半絞り開き、2.5倍は1絞り半4倍とのきは2絞り開きます。)

露出計の正しい測り方

コニカSの連動露出計は反射光専用方式であり、被写体から反射して来る光の強さを測り露出を決定するようになっています。しかしカメラをただ単に被写体に向けて測定しただけでは、被写体以外からの光や影などの影響によって、よい結果が得られない場合がありますから、次の事項に注意して正しい測り方をしてください。

人物撮影では

人物の背景からの光が露出計受光部に入らないように、人物に近づいて測ってください。この際自分の影や、カメラの影が測定面に入らないように注意します。被写体のハイライトとシャドウを測り、その平均値が最も正しい露出となります。

カラー撮影では

コニカSの連動露出計はカラー撮影にも適しており、露出の決め方はモノクローム撮影の場合と同様な測り方で撮影してください。

風景撮影では

空を含む風景のときは、露出計受光部が空の光に影響されないように、カメラを下向きにして2～3メートル先の地上に露出を合わせてください。非常に広い風景では測定値の $\frac{1}{2}$ の露出にします。空を含まない風景では、カメラを被写体の中心に向けて得た露出で正しい結果が得られます。

逆光線下の撮影で

被写体を明るく描写したいときには陰になっている被写体に近づいて、背景の明るい光線が露出計受光部に入らないようにして、被写体そのものに露出を合わせます。

被写体も背景もともに描写したいときには、被写体の陰の部分の測定値と、背景の測定値の平均の露出で撮影します。

被写体をシルエット描写にしたいときには明るい背景に露出を合わせて撮影します。

フラッシュ同調撮影

フラッシュ同調撮影を行うときには、フラッシュガンのコードをカメラボデーにあるフラッシュ接続ソケットに接続します。



M級フラッシュバルブ（タイムツーピーク20ミリ秒以内）を使用する場合には、シャッターのMX接点切替レバーをMの位置にセットし、

ストロボ（閃光放電管）を使用するときにはXの位置にセットすれば、両者とも最高速度まで各速度に完全同調します。



フラッシュ同調表

フラッシュバルブの種類	接点切替	
	M	X
M 級	全速度同調	$\frac{1}{30}$ 秒まで
F 級	不同調	$\frac{1}{60}$ 秒まで
ストロボ	不同調	全速度同調

- M X接点切替レバーは、同調撮影時以外はM Xのどちらの位置にセットしておいても差支えありません。
- セルフタイマーはX接点の位置だけで作動するため、セルフタイマー使用による同調撮影は、ストロボならば最高速度まで同調可能ですが、フラッシュバルブ使用の場合はフラッシュ同調表を参照してください。

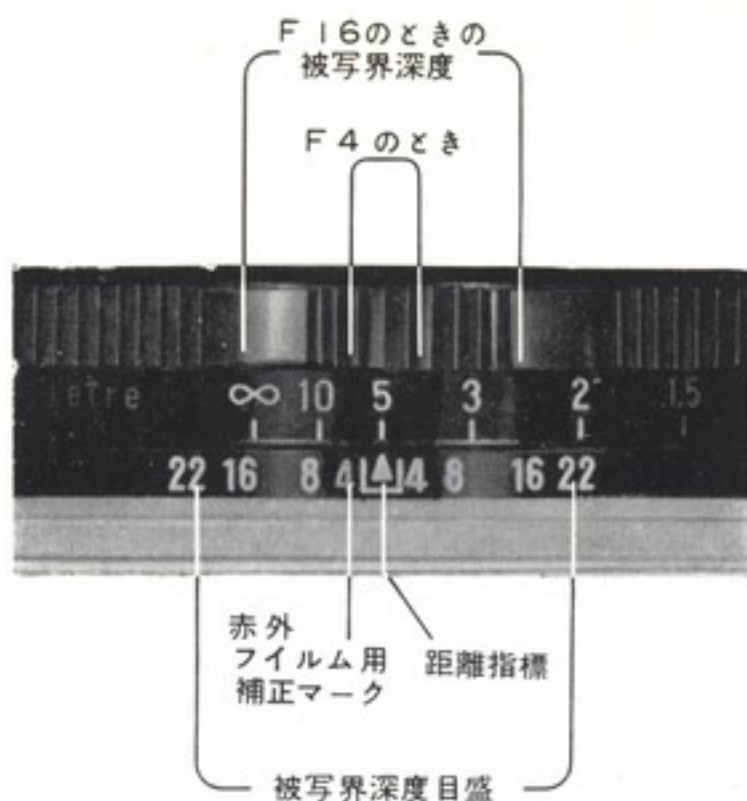
被 写 界 深 度

ある被写体に焦点を合わせたとき、その前後においても実用上鮮鋭に写る範囲があります。この鮮鋭に写る範囲を被写界深度といいます。

そして被写界深度は次のような性質をもっています。

- 一定距離においては絞りを小絞りにするほど深くなる。
- 一定の絞りならば被写体までの距離が遠いほど深く、近距離においては浅くなる。
- 焦点を合わせた被写体の後方に深く前方に浅い。

被写界深度は被写界深度目盛によって知ることができます。距離指標を中心として両側に絞り目盛が記してありますが、使用する絞りの値に囲まれた距離の範囲が被写界深度になります。たとえば被写体までの距離が5メートルであったとすると、F4のときには4メートルから7メートルまでの間は鮮鋭に写り、F16に絞ると2.5メートルから ∞ （無限遠）までが被写界深度に入ることがわかります。



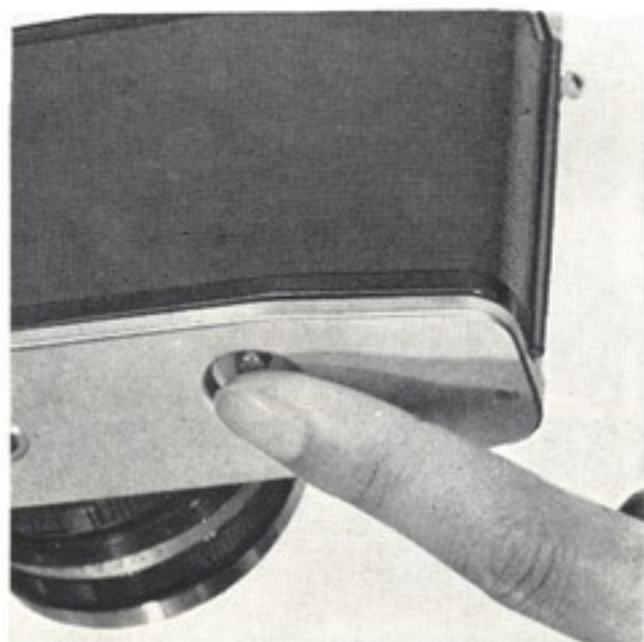
人物撮影で背景をボカしたいとき、あるいは奥行きのある集合人物撮影にあたって前列から後列まで鮮鋭に写したい場合などに活用できます。

赤外フィルム用補正マーク 被写界深度目盛中の赤文字の4が赤外フィルム用補正マークになっております。赤外フィルム使用による撮影の場合には、普通に焦点を合わせた後距離指標で距離目盛を読み、その読み目盛を補正マークまで移動すれば正しい焦点が得られます。

フイルムの巻戻し

- フイルムを全部撮影し終ると巻上げレバーは動かなくなり、むりに動かさないでフイルムを巻戻します。
- フイルム終了の最後の巻上げに際し巻上げレバーが途中で止ったときには、巻戻しボタンを押したまま巻上げレバーを止まるまで操作すれば元に戻ります。巻上げレバーが途中のまま巻戻しを行っても差支えはありません。

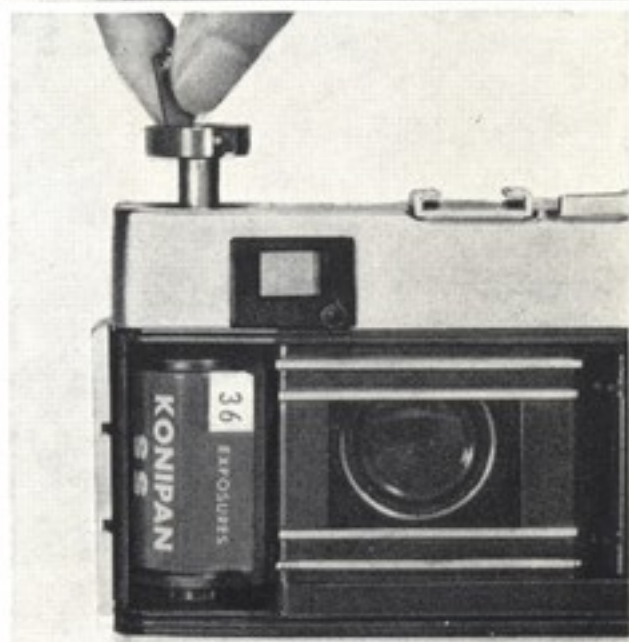
- ①まず巻戻しボタンを押し（自動解除のため一度押せばよい）



② 巻戻しクランクを起して矢印の方向に回転するとフィルムはもとのパトローネに巻戻せます。



③ 次に裏蓋を開き、巻戻しクランクを引出してパトローネを取出します。



■ フィルムが巻取りスプールからはずれるときには一度重くなって急に軽くなります。フィルムのリーダー部分を残しておくにはこのときに巻戻し操作を停止します。

■ パトローネをカメラから取出すときには日陰で操作して下さい。

万一カメラに故障あるいは不審の点を発見した場合には、できるだけ当社宛にご送付ご用命ください。カメラは化粧箱に元どおり入れ、少なくとも厚さ20ミリくらいの衝撃防止のパッキングで包み、段ボールまたは木箱に入れてご送付ください。

小西六写真工業株式会社

- | | |
|--------------|---|
| 東京サービスステーション | 東京都中央区日本橋室町3-1
電話 東京(24)4181(代)7261(代) |
| 小西六フォトギャラリー | 東京都中央区銀座3-1
電話 東京(56)1267 |
| 大阪営業所 | 大阪市南区長堀橋筋1-46
電話 大阪(27)1675-8 |
| 福岡営業所 | 福岡市下呉服町13
電話 西(2)5535-7 |
| 名古屋営業所 | 名古屋市中区南大津通り1-11
(千代田ビル内)
電話 名古屋(24)7321-4 |
| 札幌営業所 | 札幌市北二条西2-32
電話 札幌(2)4492 |

被写界深度表

ヘキサノン F/2 48 mm 被写界深度表(メートル)

距離目盛 (ノ ン メ ートル) 絞り F	0.9	1.0	1.2	1.5	2.0	3.0	5.0	10.0	∞
2	0.89 ~ 0.92	0.98 ~ 1.03	1.17 ~ 1.24	1.45 ~ 1.56	1.91 ~ 2.11	2.78 ~ 3.27	4.41 ~ 5.79	7.85 ~ 13.82	35.74 ~ ∞
2.8	0.88 ~ 0.93	0.97 ~ 1.04	1.16 ~ 1.25	1.43 ~ 1.59	1.87 ~ 2.16	2.71 ~ 3.38	4.21 ~ 6.17	7.23 ~ 16.31	25.56 ~ ∞
4	0.87 ~ 0.94	0.96 ~ 1.05	1.14 ~ 1.28	1.40 ~ 1.62	1.82 ~ 2.23	2.60 ~ 3.57	3.94 ~ 6.82	6.48 ~ 22.40	17.92 ~ ∞
5.6	0.86 ~ 0.96	0.94 ~ 1.07	1.11 ~ 1.31	1.36 ~ 1.68	1.75 ~ 2.34	2.46 ~ 3.86	3.64 ~ 8.08	5.67 ~ 44.77	12.83 ~ ∞
8	0.84 ~ 0.98	0.92 ~ 1.11	1.08 ~ 1.36	1.31 ~ 1.77	1.67 ~ 2.52	2.29 ~ 4.41	3.26 ~ 11.02	4.79 ~ ∞	9.91 ~ ∞
11	0.81 ~ 1.02	0.89 ~ 1.15	1.04 ~ 1.43	1.25 ~ 1.89	1.57 ~ 2.80	2.10 ~ 5.37	2.89 ~ 20.31	4.01 ~ ∞	6.58 ~ ∞
16	0.78 ~ 1.08	0.85 ~ 1.23	0.98 ~ 1.57	1.17 ~ 2.15	1.43 ~ 3.43	1.86 ~ 8.46	2.43 ~ ∞	3.17 ~ ∞	4.55 ~ ∞
22	0.74 ~ 1.17	0.81 ~ 1.35	0.92 ~ 1.78	1.08 ~ 2.58	1.30 ~ 4.73	1.63 ~ 29.21	2.05 ~ ∞	2.54 ~ ∞	3.34 ~ ∞

M E M O

MEMO	
レンズ No.	
ボデー No.	



小西六写真工業株式会社

東京都中央区日本橋室町3-1
電話東京(24) 4181(代), 7261(代)